

として新しいアイデアが火花を散らす場となるような研究会を目指しています。当研究会のホームページは <http://ha2.seikyoku.ne.jp/home/umihito/> にて御覧いただけますので、御入会、御支援等お願いいたします。
(文責 中央水産研究所経営経済部 多田稔)

り入れられている。また農地転用(建設占用)については、同量の農地開発が義務づけられており、2001年では各省ともこの義務を果たしているため、現在は問題は生じていないものの、今後とも中国の農地動向について注視していく必要がある。

(文責 水野正己)

【食料需給プロ】

特別研究会報告要旨(2002年6月17日)

アフリカの食料と農業

(京都大学) 荒木 茂

資源制約下における中国農業の現状と問題点

白石 和良

中国の農業資源を考えてみると、農地、水、労働力のうち、最後の労働力について問題ないことは明らかである。農村の就業者が3億人で、その50%が過剰とされている。

そこで、本報告ではまず農地を取り上げる。中国の農地面積は、2000年7月公表(1996年10月現在)によれば、耕地1億3006.7万ha、園地1000万ha、林地2億2760万ha、牧草地2億6606.7万haである。また、「基本農田」という転用不許可農地を1億853.3万ha確保する計画になっている。

中国の農地の変動については、増減の原因別に把握する必要がある。例えば、1985年を見ると、農地のかい廃による減少は年間150万ha、農地の新規造成による増加は年間50万haとなっている。従って、表面上の農地の純減は100万ha/年となる。ただし、減少面積の中には退耕還林、退耕還草によるものが含まれているので、両者を控除すると、次のようになる。

農地減少	新規造成	退耕還林	退耕還草	農地純減
159.79	- 58.87	- 60.79	- 32.75	= 7.38 (万ha)

すなわち、農地の純減は極めてわずかでしかないのが実態である。農地減少の理由で量的に大きいのは退耕還林・退耕還草(2000年に再開)であり、西部大開発の一環として取

アフリカ農業をどのように捉えるか。こうした問題を念頭にアフリカ各地の農業研究に携わってきた。アフリカ農業を規定する要因として考慮すべき事項に、

植民地主義の影響(特に南部アフリカ、高原台地地帯に影響が大きい、文化への影響)

多くが高原台地上に位置すること

商品作物生産(コーヒー、サイザルアサ、カシュー、チャ、除虫菊、タンザニアでは小農民経営が発達、西アフリカの 카카오、商品生産農業には外部投入財が用いられる)

在来農業による主食作物生産

人口増加に追いつかない食料生産

インフォーマルセクターの重要性

降雨の変動性が大きいこと(従って、干ばつと大雨の交替)

環境問題(砂漠化など)の存在

構造調整の影響

などがあげられる。

アフリカ農業の将来展望において、在来農業をどのように理解するかが鍵である。在来農業はさまざまな主食作物を無肥料や混作で生産している。代表的なものに、プランティンバナナ(カメルーンの森林地帯、人口密度高い、タンザニアのチャガ族)、キャッサバ、タロ、ヤム(キャッサバに代替される傾向、土地肥沃土の低下への対応)、トウモロコシ(トウジンビエ、シコクビエに代替)、トウジンビエ(パールミレット)、ソルガム(トウジンビエと類似した分布)などがある。